

「横須賀ジャガーズ」が初栄冠。9代目王者に

スポーツを通じて神奈川県内の子どもたちの健全育成を支援する「2014専修大学カップ神奈川県学童軟式野球選手権大会」（神奈川県野球連盟共催）が8月2日から7日まで境川遊水地公園少年球場（横浜市）などで開催され、県内各地の代表54チームが熱戦を繰り広げた。優勝は横須賀市代表の横須賀ジャガーズで、初の栄冠に輝いた。

決勝は、各地で記録的猛暑となった7日、平塚球場（平塚市）で行われた。横須賀ジャガーズ（横須賀市代表）と南野川ブルーアローズ（川崎市宮前区代表）による決勝戦は、南野川ブルーアローズが1回表に1点を先制。2回裏には横須賀ジャガーズが同点に追いつき、その後南野川ブルーアローズが5回表に3点を追加し引き離すも、その裏横須賀ジャガーズも2点を返した。南野川ブルーアローズ1点リードのまま、最終回7回裏の横須賀ジャガーズの攻撃を向かえた。ノーアウト1、2塁で湊清一郎選手が送りバント。1塁への送球が外れ2点が入り、横須賀ジャガーズが5対4でサヨナラ勝ちした。

横須賀ジャガーズの三浦崇監督は、「まさか勝つとは思わなかった。最終回のバントは劇的だった。みんながヒットをつなげようという気持ちがこの結果を生んだと思う。横須賀市代表として恥じないよう頑張ってきた。」と優勝の喜びを語った。同主将の湊選手は、「進塁を心がけ、ピンチの場面ではしっかり抑えられた。こんなに点が入るとは思わなかったが、横須賀市代表として専大カップ優勝を誇りに思う。」と喜びを語った。

決勝戦終了後、表彰式・閉会式が行われ、優勝チームには、馬場杉夫経営学部長（大会会長代行）から賞状、優勝旗、優勝カップが神奈川県少年野球連盟会長の鈴木一誠大会副会長から賞状、優勝盾が贈られ、栄誉を称えた。

優秀選手賞には横須賀ジャガーズの齊藤悠大選手（6年生）が、敢闘賞には南野川ブルーアローズの藤井貴也選手（6年生）がそれぞれ選ばれ、県野球連盟から表彰された。入賞チームには、監督・コーチを含めた全員に記念のメダルが授与された。

馬場経営学部長（大会会長代行）は、「選手の皆さんの一つひとつの一生懸命な姿が感動の渦に巻き込みました。この大会は神奈川県野球連盟、神奈川県新聞社、テレビ神奈川をはじめ、多くの方々の絶大なる支援により非常に充実した大会となりました。また、監督・コーチをはじめ、選手のご父母・保護者の方々のご支援が充実した大会に導き、心から敬意を表します。選手の皆さんは、この大会を通じて得たうれしさ、悔しさ、喜びを感じずっと心に秘めていくことでしょ。これからも多くの方々皆さんを応援し皆さんの活躍を期待しています。このことを忘れてないで頑張ってください。」とあいさつを述べた。

本大会は、鈴木一誠大会副会長のあいさつの後、閉幕した。

優勝チームは、8月22日にtvkの昼のワイド番組「ありがとう!!」に出演、喜びを語る。なお、大会の様子は、同24日19時00分よりtvkで2時間50分の特別番組として放送される。



▲優勝を喜ぶ選手たち



▲熱戦が繰り広げられた平塚球場



▲9代目王者に輝いた横須賀ジャガーズ



▲準優勝の南野川ブルーアローズ



▲馬場大会会長代行より優勝旗が贈られる



▲記念のメダルを授与